

## 平成23年度（第65年度）事業報告

本年度は 4月1日の新年度より新法に基づく「公益法人」の認定を受け新生「公益財団法人三越厚生事業団」として新たなスタートを切った歴史的に意義深い年度でありました。定款に定める「公衆の健康な生活の維持増進をはかるための公益活動を行うことにより、保健衛生の向上に寄与するとともに、社会公共の福祉に貢献することを目的とする」公益法人として1947年の財団法人設立の主旨に則り、更なる飛躍・発展を遂げなければならない大変重い責任を担うこととなりました。

三越厚生事業団が公益法人として認定を受けた最も核心的根拠は、「生活習慣病その他重要な疾病予防に関する健診・診療、調査・研究及び研究助成を行うことにより、健康寿命の延伸、保険医療制度の維持向上等への重要な鍵となる生活習慣病の予防・撲滅に寄与する諸事業を相互に関連づけて行う法人である」と定義したことであります。その定義に則って新公益法人初年度にあたる本年は、公益法人として更なる進化を遂げる為の「基盤整備元年」と位置付け諸施策を展開して参りました。

本年 特に所期の目的と期待される成果を挙げることができた事業は、ひとつには、極めて質の高い応募医学研究の中から3つの優れた医学研究に対し研究助成を行うことができたこと、二つめは、3年間続けてきた「3か所の同一社会福祉施設に対する無料巡回健診の実施とその健診から得られたデータを活用した医学研究」を無事終了することができたこと、三つめは 医療に携る法人にふさわしい 医師も含めた事業団職員の「人事・賃金制度」に改正することを目的に、現制度の問題点の検証と具体的新制度の内容をこの1年かけて構築し、24年4月より実施に移す目処をつけることができたこと、四つめは、公益財団法人に移行したことを契機として 当事業団の「ホームページ」を抜本的に見直し、新鮮且つ有用な情報を整備して見やすく操作しやすいホームページに刷新することができたこと、であります。

また、事業団全体の収支赤字構造を解消し 安定的な財務構造に転換する為の3カ年計画の初年度である本年については、支出・費用構造の改革には一定の成果をみる事ができたものの、残念ながら収益面での減少傾向に歯止めがかからず、更なる収益改善の為の具体的施策の実行が急務の状況にあります。

24年度、25年度の2カ年をかけて 支出面での更なる改善はもとより、特に収益面での具体的施策の実行を強力に推進していくこと、公益目的事業の再編を実行に移すこと等により10年来の収支赤字構造からの脱却を 確実に実現して参る所存であります。

## 平成23年度 事業報告

### I 事業運営に関する事項

#### 【1】生活習慣病の疾病の病因・診断・治療及び予防に関する調査研究のための健診ならびに診療事業（定款第4条第1号・第2号・第5号事業）

##### 1. 健診・診療事業の受診者状況

###### (1) 健診・診療事業

- ・健診・診療事業は当事業団の事業活動の根幹をなす事業であり、本年度も両事業の実施を通じて年間33,000件余の受診者データを収集、蓄積し、生活習慣病その他重要な疾病の予防、病因の解明等の研究に資するとともに、その成果を活用した健康教育、健康相談等を実施し、生活習慣病撲滅の啓発、普及に努めました。
- ・特に今年度は、健診分野では新宿区健診の受診体制を強化・拡充し、4月には区健診者へのオプション検査を開始、10月からは月2回 第2・第4土曜日の健診を新たにスタートし、区健診者をはじめ受診者への便宜を図りました。また、健診検査項目の見直しにも着手し、non-HDLc、LH比、TSH/fT3/fT4（甲状腺）、アレルギー検査、血清ビロ抗体等の検査を開始するなど よりの確な診断と健診の質的向上に取り組みました。
- また、診療分野では、胃内視鏡検査日の拡大や胸部CT、肺がん検診の勧奨などの諸施策をはじめ、患者目線に立った効率的な業務運営を一段と進めるとともに、検査・原材料費等の発注先の集約化、不動薬の整理、ジェネリック薬への切替えなどのコスト削減策に取り組みました。
- ・以上の結果、平成23年度の健診・診療事業の受診者数は次のとおりとなりました。

###### < 健診事業 >

###### ○健診受診者総延数

・生活習慣病健診	10,834名（前年度 11,209名）
・職域入社・定期健診	2,278名（前年度 2,992名）
・新宿区・中野区成人病健康診査	938名（前年度 890名）
計	14,050名（前年度 15,091名）

###### < 診療事業 >

###### ○診療患者数延数

###### ①延数内訳

・内科	18,517名（前年度 20,100名）
・予防注射	796名（前年度 790名）
・精密検査	341名（前年度 510名）
計	19,654名（前年度 21,400名）

###### ②種目別内訳とその適用患者数

・国民健康保険	8,476名（前年度 8,973名）
・社会保険（政府管掌）	1,525名（前年度 1,473名）
・社会保険（組管掌）	7,838名（前年度 8,902名）
・社会保険（その他）	546名（前年度 571名）
・自費	928名（前年度 971名）
計	19,313名（前年度 20,890名）

###### (2) 社会福祉施設無料巡回健診

- ・公募にて選定した東京都内所在の社会福祉法人の老人施設を対象に、高齢者の健康維持、健康増進のための研究に資するべく、本年度も無料健康診断を継続実施しました。

健診は、特定健診の項目を基本に、血液検査、心電図検査、胸部X線検査等の項目を追加して行い、実施に当たっては「医療法人社団 こころとからだの元氣プラザ」の協力を得て行ないました。

・実施施設は次のとおり。（3施設、152名を受診）

- ①社会福祉法人邦友会 特別養護老人ホーム「新宿けやき園」
  - ・実施日 11月2日（水）
  - ・受診者数 94名
  - ・健診結果説明 12月9日（金）
- ②社会福祉法人ケアネット 特別養護老人ホーム「やよいほうむ」
  - ・実施日 11月24日（木）
  - ・受診者数 29名
  - ・健診結果説明 12月20日（火）
- ③社会福祉法人はとせふ 特別養護老人ホーム「はるかぜ」
  - ・実施日 11月24日（木）
  - ・受診者数 25名
  - ・健診結果説明 12月26日（月）

## 2. 当事業団医師並びに職員による研究活動

### (1) 臨床的研究の発表

平成22年度に実施した各種健診の統計的調査と観察成績を「事業年報」第38号に発表し、関係医療団体、諸官庁他、各職域健康保険組合及び関連財団法人等200団体へ配布しました。

### (2) 平成22年度の所内研究とその発表会の開催

- 実施日 平成23年4月27日（水）
- 会場 5階 三越総合健診センター
- 発表 発表は以下の12題

- ①健診におけるオプション検査受診者の健康実態調査
- ②受診者・オプション検査申込者増加の施策
- ③健診受診企業・団体ごとの健診結果評価と対応アドバイスをするためのシステム構築
- ④健診再検率に影響を及ぼす因子
- ⑤レセプト返戻・再審査の傾向と改善状況
- ⑥診療所内衛生状況調査
- ⑦減量に伴う検査データの改善率について
- ⑧骨密度の経年変化について
- ⑨平成22年度インフルエンザワクチンに関する調査
- ⑩頭痛有病者の医療機関受診後通院を中断した理由に関する検討
- ⑪糖尿病発症の予知に関する研究
- ⑫ストレスの心機能に与える影響について

### (3) 学会発表、論文寄稿、講演活動等について

①学会における演題発表

氏名	参加月	名称	演題	開催地
近藤 修二	4月	第 108 回日本内科学会講演会	ストレスの心機能に与える影響について (震災影響により内科学会誌紙上発表)	—
横山 雅子	5月	第 52 回日本神経学会学術大会	頭痛有病者の医療機関受診後通院を 中断した理由に関する検討	名古屋
船津和夫、他	8月	第 52 回日本人間ドック学会学術大会	中年男性における腎結石と生活習慣病 関連因子の検討	大阪
寺田奈美、他	8月	第 52 回日本人間ドック学会学術大会	高感度 CRP を中心とした健診データの経 年変化	大阪
金澤麻衣、他	8月	第 52 回日本人間ドック学会学術大会	二次検査受診率に影響を及ぼす環境的 要因	大阪
横山 雅子	9月	MCSS(Migraine Clinival Speaker's Seminar)	頑固な痛みを訴える患者にどのように 対処するか	大阪
Haruo Nakamura	11月	American Heart Association(AHA)	Reduction of Non-HDL-cholesterol by more than 5% with NCEP diet reduces CHD risks	オーランド フロリダ
横山 雅子	11月	第 39 回日本頭痛学会総会	頭痛有病者の頭痛の対処法	東京
船津和夫、他	1月	第 40 回日本総合健診医学会	空腹時血糖正常者における脂肪肝の 生活習慣病関連因子への影響	東京
細合浩司、他	3月	第 76 回日本循環器学会学術集会	Combination treatment of angiotensin-receptor blocker(ARB) with low dose hydrochlorothiazide (HCTZ) vs with calcium channel blocker(CCB) in patients with hypertention	福岡

②外部講演会（医師、医療従事者、製薬会社等）

氏名	参加月	名称	演題	開催地
山下 毅	6月	西新宿保健センター講演	敵を知ろう！「内臓脂肪とは」-究極のメ ボ予防作戦	東京
横山 雅子	6月	製薬会社社員研修会	脳卒中と高血圧	東京
細合 浩司	7月	社員教育勉強会	糖尿病基礎知識と治療の現状・今後 ～インクレチンの位置づけ	東京
中村 治雄	8月	新宿区文京区脂質異常症セミナー (製薬会社)	メバロチンを安全に使うには	東京
中村 治雄	9月	第 8 回Livita研究会(製薬会社)	動脈硬化性疾患を予防するために、食 事療法(サプリメントなどを含む)は血清脂 質に対してどうあるべきか	東京
細合 浩司	11月	第 7 回循環器治療研究会	高血圧治療に難渋した糖尿病の 1 例	東京
船津 和夫	3月	製薬会社社員教育勉強会	PPIと胃・食道の病気	東京

③当事業団医師の発表論文

論 文 名	氏 名	掲 載 雑 誌 名
脂質異常症・メタボリックシンドローム	山下 毅	外来で診る老年期の医学と疾患 薬剤師継続学習通信講座 第V講座 P109-111.2011(慶應義塾大学薬学部)
Interactions between migraine and tension-type headache and alcohol drinking, alcohol flushing, and hangover in Japanese	Masako Yokoyama, N.Suzuki,T.Yokoyama A.Yokoyama,K.Funatsu T.Shimizu,M.Shibata	J Headache pain (2012)13 : 137-145
働き盛りの頭痛	横山 雅子	クリニシャン(2011)605 : 98-104
非肥満者と肥満者における脂肪肝とインスリン抵抗性の検討	船津 和夫、他	人間ドック 26:37-43,2011
Coffee consumption is associated with a lower incidence of fatty liver in middle-aged men.	Funatsu K,et al	Journal of Health Science, 57 : 406-413,2011

④その他雑誌など

論 文 名	氏 名	掲 載 雑 誌 名
コレステロール騒動の客観的みかた	中村 治雄、山下 毅 細合 浩司	総合臨床 2011;60:1504-1506
生活習慣病になる前に —家族でメボ対策—	中村 治雄	Doctor's eye 2011;6(3):20-25 self doctor 2011;15(3):18-23
動脈硬化疾患を予防するために、食事療法(サプリメントなどを含む)は血清脂質に対してどうあるべきか	中村 治雄	メディカル朝日 セルフメディケーションを支援する会(第8回研究会より)、2013 : 41 : 3
脂質異常症(高脂血症)	中村 治雄	健診・人間ドックハンドブック 118-123 中外医学社 2011.5月
動脈硬化検査	中村 治雄	健診・人間ドックハンドブック 124-127 中外医学社 2011.5月
脂質領域(総監修)	中村 治雄	メボリックシンドローム研修テキスト 脂質領域 大正製薬(株) H23.6

【2】生活習慣病等の疾病の予防および健康保持増進のための事業(定款第4条第2号事業)

(1)生活習慣病健診報告懇話会

- ・本年度は、心筋梗塞、脳梗塞など動脈硬化性疾患の発症について最も予知能力が高いと思われる Non HDL-C 値という指標について、また胃がん発見に有効なピロリ菌検査とペプシノゲン法を組み合わせた検査方法(ABC検診)等の新しい動きについて報告し、参加事業所間の相互理解と情報交換ならびに交流に努めました。

実施日：平成23年12月1日（木）  
場所：エステック情報ビル21階「A会議室」、4階「AGORA」  
参加人数：25事業所 37名  
報告会：動脈硬化性疾患発症について～脂質に関する新しい指標  
講師／中村 治雄（三越厚生事業団 常務理事）  
新しい胃がん検診を巡って  
講師／船津 和夫（同 三越診療所 所長）

(2) 健康イベント等の自主開催

- ・「食と健康」をテーマとした体験型イベントを女子栄養大学栄養学部の本田教授による献立指導の下、女子栄養大学構内「松柏軒」にて開催しました。

①第1回 6月2日（木） 午前11時00分～午後1時00分

会場：女子栄養大学構内4号館5階「松柏軒」

内容：

1. 講演 演題「コレステロールを考える」  
講師 山下 毅（三越厚生事業団 三越総合健診センター長）
2. お食事 ～コレステロールを中心とした血中脂質を過剰に増やさないためのお食事  
松柏軒料理長 宮田寛敬氏による料理の解説

参加人員：51名

②第2回 9月10日（土） 午前11時00分～午後2時00分

会場：女子栄養大学構内4号館5階「松柏軒」

内容：

1. 血糖検査（食前の血糖値をその場で測定）
2. お食事 ～糖質代謝を考えるお食事  
松柏軒料理長 宮田寛敬氏による料理の解説
3. 講演 演題「糖尿病（糖代謝異常）になりにくくする生活習慣」  
講師 細合 浩司（三越診療所部長）
4. 血糖検査（食後の血糖値をその場で測定）  
血糖値の測定結果に関する解説（細合浩司）

参加人員：30名

【3】生活習慣病等の疾病の予防・診断・治療に関する啓蒙、啓発及び普及事業  
(定款第4条第3号事業)

(1) 健康セミナー・健康講座の開催

- ・「生活習慣病から身を守るには」をテーマに、新聞等の媒体を介して広く一般の方々から参加を募り健康セミナー及び健康講座を開催しました。

<平成23年度開催結果>

回数：5回（健康セミナー2回・健康講座3回）

前年／8回（健康セミナー3回・健康講座5回）

参加者数：延べ 1, 227名（前年 1, 734名）

- ・内容は以下のとおり。

○健康セミナー

①第35回健康セミナー

開催日時：5月18日（水） 午後1時00分～4時00分  
会場：三越日本橋本店6階「三越劇場」  
主催：公益財団法人三越厚生事業団  
後援：日本動脈硬化学会・日本人間ドック学会・毎日新聞社

第1部講演：演題「がんを遠ざける生活習慣」  
講師 津金 昌一郎氏（独立行政法人 国立がん研究センター  
がん予防・検診センター予防研究部 部長）

第2部講演：演題「生活習慣と消化器病」  
講師 船津 和夫（三越厚生事業団 三越診療所 所長）

参加人員：415名

②第36回健康セミナー

開催日時：11月29日（火） 午後1時00分～3時20分  
会場：京王プラザホテル南館4階「錦」  
主催：公益財団法人三越厚生事業団  
後援：日本動脈硬化学会・日本人間ドック学会・毎日新聞社  
講演：演題「心筋梗塞・脳梗塞発生の抑制を目指した動脈硬化の予防治療」  
講師 水野 杏一氏  
（日本医科大学医学部長 日本医科大学内科学講座 主任教授）

参加人員：302名

○健康講座

①第33回健康講座

開催日時：10月6日（木） 午後2時30分～3時50分  
会場：野方区民ホール  
主催：公益財団法人三越厚生事業団  
後援：日本人間ドック学会  
講演：演題「心臓病を予防する生活習慣－実践したい運動・気をつけたい食事－」  
講師 近藤 修二（三越診療所部長）

参加人員：240名

②第34回健康講座

開催日時：1月18日（水） 午後2時30分～3時50分  
会場：杉並公会堂 小ホール  
主催：公益財団法人三越厚生事業団  
後援：日本人間ドック学会  
講演：演題「ストレスと健康－ストレスと上手につきあう生活－」  
講師 横山 雅子（三越診療所所長）

参加人員：139名

③第35回健康講座

開催日時：3月22日（木） 午後2時30分～3時50分  
会場：新宿文化センター 小ホール  
主催：公益財団法人三越厚生事業団  
後援：日本人間ドック学会  
講演：演題「特定健診（メタボ健診）を振り返って－健診データから何が解るか－  
－健康診断から見えてくる糖代謝・糖尿病治療の今－」  
講師 山下 毅（三越診療所副所長）

参加人員：131名

## (2) 生活習慣病予防の啓発、広報活動

①保健衛生思想普及のため、広報活動を次のとおり実施しました。

- ・新宿区が発行する区民向け広報誌「暮らしのガイド2010年版」に当事業団の公益活動ならびに生活習慣病予防の啓発広告を掲載しました。

(2010年3月までに全戸配布。2012年1月までの転入者に配布。)

②事業年報の作成

平成22年度(平成22年4月～平成23年3月)に実施した集団健診、診療等の統計的調査と観察成績を「事業年報」第38号に掲載し、職域健康保険組合及び企業関係者、関係医療団体(病院・研究機関)、関連社団・財団法人等に配布しました。

③三越厚生事業団ホームページの全面刷新

公益認定の取得を機会にホームページ刷新プロジェクトチームを所内で立ち上げ24年2月より全面公開し、公益財団法人としての経営情報の開示、公益事業活動の紹介、リアルタイムな情報発信強化に努めました。

## 【4】生活習慣病等の予防、診断、治療に関する研究助成並びに研究者への各種助成事業

(定款第4条第4号事業)

### 1. 平成23年度 第39回三越医学研究助成

生活習慣病その他重要な疾病の予防・撲滅に寄与する医学研究を発展させることを目的に東京都内並びに東京都近隣の大学医学部、医学研究施設、病院等を対象に生活習慣病とその克服を中心とした研究課題について広く公募し、助成対象者に助成金を交付しました。本年度の応募総数は16件で、そのなかより厳正な審査を経て受賞者3名を決定しました。

#### ●募集・選考日程

- ・4月 8日(金) 『募集研究課題設定委員会』を開催し研究課題を決定、公募開始、募集締切り(7月末)
- ・8月19日(金) 審査員を決定し『審査委員会』を設置
- ・9月16日(金) 『助成選考委員会』を開催し助成対象者、助成金額を決定
- ・11月29日(火) 三越医学研究助成贈呈式 開催

#### ①研究課題の決定

研究課題1 「酸化・抗酸化と動脈硬化」

研究課題2 「メタボリックシンドロームと消化器疾患」

#### ②審査委員会による応募課題審査

<審査委員>

審査委員長 中村 治雄(三越厚生事業団常務理事)

審査委員

- ・水野 杏一氏(日本医科大学内科学講座 循環器・肝臓・老年・総合病態部門教授)
- ・多田 紀夫氏(東京慈恵会医科大学附属柏病院内科総合診療部教授)



・城 卓司氏（名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学教授）

・船津 和夫（三越厚生事業団理事・三越診療所長）

＜審査・選考＞

研究課題テーマ毎に専門分野の審査員による評価を行ないました。

評価にあたっては、応募者の研究機関名、氏名をブラインドにして行い、総合点により上位を選考し助成金額案を付して理事長に審査結果を報告しました。

③助成選考委員会

審査委員会による審査結果をうけ『助成選考委員会』を開催し、助成対象者及び助成金額を決定しました。

④三越医学研究助成贈呈式

11月29日（火） 新宿 京王プラザホテルにて同助成贈呈式、受賞記念パーティーを開催しました。

⑤本年度の助成対象者は以下のとおり。

第39回 三越医学研究助成対象者

氏名	所属機関	課題	研究課題	助成金
板部 洋之	昭和大学 薬学部生物化学教室 教授	1	血管平滑筋細胞の抗酸化システム・ 抗炎症システム変動による動脈硬化 発症機構	240万円
田中 知明	千葉大学大学院 医学研究院 講師	1	癌抑制遺伝子 p53 による抗酸化・エネ ルギー調節を介した動脈硬化の新た な分子病態の解明	300万円
鈴木 秀和	慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）准教授	2	胆汁酸刺激によるパレット食道腺がん 発症機転の解明－新規メタボリックシ ンドローム治療薬「胆汁酸受容体刺激薬」の 食道作用の検証	300万円

（注） 研究課題1 「酸化・抗酸化と動脈硬化」

研究課題2 「メタボリックシンドロームと消化器疾患」

2. 平成23年度 第12回海外留学渡航費助成

海外での医学研究や医療技術習得を志す若手医学者で且つ留学先受入研究機関が決まっている者、若しくは海外留学中で留学受入先の研究指導者の推薦がある者に対し、留学費用の一部として渡航費の助成を行いました。本年度は、選考の上3名の受賞者を決定し夫々に助成金を交付しました。

●募集・選考日程

- ・4月 公募開始、募集締切り（6月末）
- ・7月15日（金） 『助成選考委員会』を開催し助成対象者を決定
- ・8月 助成金を贈呈

●本年度の助成対象者は以下のとおり。

## 第 12 回 海外留学渡航費助成対象者

氏名	所属機関	留学先	研究課題	助成金
渡邊 雄介	公益財団法人日本心臓血圧振興会附属 榊原記念病院 循環器内科 医員	パリ南心臓センター (フランス)	器質的心臓疾患のカテーテル治療の習熟と研究(大動脈弁狭窄症および僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療を安全に行う手法の習熟と臨床への有効性の短中期的検討)	60 万円
早河 翼	東京大学 医学系研究科 消化器内科	コロンビア大学 (アメリカ)	胃癌における腫瘍関連線維芽細胞を対象にした新規治療標的因子の探索	60 万円
齋藤 雅彦	千葉大学大学院 医学研究院整形外科 千葉大学医学部附属病院 材料部 医員	スクリプス研究所(アメリカ)	変形性膝関節症における軟骨の血管新生の病態への関与	60 万円

## II 管理・運営事項

### 1. 理事会・評議員会の開催

#### (1) 理事会の開催

##### ①第 1 回 理事会

- ・開催日 平成 23 年 5 月 24 日 (火)
- ・場所 エステック情報ビル 2 1 階 会議室
- ・議題
  - 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告書及び決算に係る正味財産増減計算書  
貸借対照表、キャッシュフロー計算書、財産目録並びに収支計算書案  
承認の件
  - 第 2 号議案 基本財産の定めに関する件
  - 第 3 号議案 助成事業取扱規程制定の件
  - 第 4 号議案 理事候補者の件
  - 第 5 号議案 平成 23 年 定時評議員会開催の件

##### ②第 2 回 理事会

- ・開催日 平成 23 年 6 月 10 日 (金)
- ・場所 エステック情報ビル 2 1 階 会議室
- ・議題
  - 第 1 号議案 理事長選定の件
  - 第 2 号議案 退任理事に対する記念品贈呈の件

前理事長佐藤文夫氏が定時評議員会終結の時をもって退任し、新たに石川博一理事が理事長に就任した。

##### ③第 3 回 理事会

- ・開催日 平成 23 年 11 月 22 日 (火)
- ・場所 エステック情報ビル 2 1 階 会議室

・議 題

- 第1号議案（報告事項）第65期（23年度上半期）業績報告の件
- 第2号議案（報告事項）代表理事、業務執行理事の業務執行状況報告の件
- 第3号議案 臨時評議員会開催の件
- 第4号議案 個人情報管理規程一部変更の件

④第4回 理事会

- ・開催日 平成24年3月22日（木）
- ・場 所 エステック情報ビル21階 会議室
- ・議 題
  - 第1号議案 平成24年度 事業計画案及び収支予算案 の件
  - 第2号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程 一部変更の件

(2) 評議員会の開催

①第1回 定時評議員会

- ・開催日 平成23年6月10日（金）
- ・場 所 エステック情報ビル21階 会議室
- ・議 題
  - 第1号議案 評議員会会長選定の件
  - 第2号議案 平成22年度事業報告書及び決算に係る正味財産増減計算書  
貸借対照表、キャッシュフロー計算書、財産目録並びに収支計算書案  
承認の件
  - 第3号議案 理事選任の件

評議員会会長に中村胤夫氏を選定。

前理事佐藤文夫氏の理事退任に伴い、現評議員の石川博一氏を新たに理事に選任した。

②第2回 評議員会（臨時）

- ・開催日 平成24年3月22日（木）
- ・場 所 エステック情報ビル21階 会議室
- ・議 題
  - 第1号議案 平成24年度 事業計画案及び収支予算案 承認の件
  - 第2号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程 一部変更の件

2. 業務事項

- ①平成23年4月 1日 特例財団法人移行による公益財団法人設立登記。財団法人解散登記。
- ②平成23年5月 2日 平成23年度事業計画書・収支予算書を東京都へ提出（窓口提出）
- ③同 7月20日 平成22年度事業報告書・決算書を東京都へ提出（窓口提出）
- ④平成24年3月30日 平成24年度事業計画書・収支予算書を東京都へ提出（電子申請）

3. 報告事項

(1) 外部監査の実施（アーク監査法人）

- ①平成23年5月11日（水）～13日（金） 22年度 期末決算監査
- ②平成23年5月19日（木） 監事への監査結果報告
- ③平成23年9月15日（木）～16日（金） 期中取引検証
- ④平成24年2月16日（木）～17日（金） 期中取引検証
- ⑤平成24年3月30日（金） 試葉棚卸・現金実査・立会

(2) 役員の変更

- ・平成23年6月10日 佐藤文夫氏 理事退任
- ・同日 石川博一氏（現評議員）理事選任、代表理事（理事長）に就任
- ・平成23年7月 8日 代表者変更に伴う変更届出を東京都へ提出（電子申請）

(3) その他

- ・当事業団では、平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災の復興支援活動として、『がんばっぺ東松島みんなで夏祭り』（於：宮城県東松島市東松島図書館）のイベントに事業団医師を派遣し、咳漱薬・点眼薬・マスクの配布ならびにその使用に関する指導や衛生指導・相談にあたりました。
- ・平成23年7月に労使からなる人事・賃金制度改正プロジェクトを発足し、ほぼ1年に亘る協議を経て、この平成24年4月1日より旧制度を全面改正した新人事・賃金制度を導入いたしました。
- ・平成23年4月1日付で、当事業団の出損先である株式会社三越伊勢丹ホールディングス傘下の百貨店事業会社である「株式会社 三越」と「株式会社 伊勢丹」の首都圏事業会社が合併し、新しく「株式会社 三越伊勢丹」としてスタートいたしました。

# 貸借対照表

平成24年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	60,884,823		
未収入金	56,414,125		
貯蔵品	829,563		
前払費用	14,229,493		
流動資産合計	132,358,004		
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 基本財産			
投資有価証券	13,285,132,704		
基本財産合計	13,285,132,704		
(2) 特定資産			
減価償却引当資産	108,504,225		
公益事業基金	178,355,000		
器具備品	8,102,147		
特定資産合計	294,961,372		
(3) その他固定資産			
建物造作	82,359,764		
建物付属設備	29,933,989		
器具備品	2,274,518		
リース資産	19,089,704		
敷金・保証金	92,092,188		
投資有価証券	181,241,000		
その他固定資産合計	406,991,163		
固定資産合計	13,987,085,239		
資産合計	14,119,443,243		
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
買掛金	3,140,767		
未払金	21,528,753		
リース債務	9,010,421		
未払消費税等	1,903,700		
預り金	4,373,905		
仮受金	45,185		
賞与引当金	20,255,363		
流動負債合計	60,258,094		
<b>2. 固定負債</b>			
リース債務	12,099,559		
退職給付引当金	90,534,000		
役員退職慰労引当金	20,204,000		
固定負債合計	122,837,559		
負債合計	183,095,653		
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
地方公共団体補助金	7,132,261		
投資有価証券	13,285,132,704		
指定正味財産合計	13,292,264,965		
(うち基本財産への充当額)	(13,285,132,704)		
(うち特定資産への充当額)	(7,132,261)		
<b>2. 一般正味財産</b>	644,082,625		
(うち基本財産への充当額)	(0)		
(うち特定資産への充当額)	(287,829,111)		
正味財産合計	13,936,347,590		
負債及び正味財産合計	14,119,443,243		

(注)公益財団法人としての通年決算初年度のため、前年度欄及び増減欄は省略している。

# 正味財産増減計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	95,860,687		
基本財産受取利息	185,863		
基本財産受取配当金	95,674,824		
② 特定資産運用益	5,540,750		
特定資産受取利息	5,540,750		
③ 生活習慣病事業収益	511,590,655		
健診研究事業収益	354,172,393		
生活習慣病健診収益	291,738,824		
雇用時健診収益	4,993,541		
定期健診収益	22,186,279		
区健診収益	35,253,749		
診療研究事業収益	139,509,762		
診療報酬収益	132,524,409		
自費収益	5,367,195		
再検査料収益	329,210		
精密検査料収益	1,288,948		
健康増進普及事業収益	17,908,500		
健康相談事業収益	17,908,500		
④ 受取補助金等	2,897,594		
受取補助金等振替額	2,897,594		
⑤ 受取寄付金	209,191		
受取寄付金	209,191		
⑥ 雑収益	2,677,859		
受取利息	115		
有価証券運用益	2,194,454		
債券4運用益	1,998,564		
債券5運用益	195,890		
雑収益	483,290		
経常収益計	618,776,736		
(2) 経常費用			
① 生活習慣病研究事業費	717,435,749		
役員報酬	27,276,300		
給料手当	198,962,437		
基準外給料	2,302,927		
賞与	29,024,287		
賞与引当金繰入額	20,204,257		
役員退職慰労引当金繰入額	2,204,000		
退職給付費用	11,738,025		
臨時雇賃金	25,597,809		
福利厚生費	50,812,610		
旅費交通費	9,316,682		
研究研修費	3,186,777		
交際費	877,476		
通信費	2,942,618		
什器備品費	655,678		
割賦・機器リース料	18,658,788		
リース支払利息	500,876		
検査・材料費	53,147,802		
薬品費	4,170,573		
消耗品費	12,530,838		
修繕費	20,495,450		
印刷製本費	5,574,447		
水道光熱費	6,821,453		
借室料	97,253,021		
業務委託費	10,980,436		
保険料	304,576		
租税公課	10,980,200		
共益費	33,473,832		
清掃費	1,997,521		
雑費	4,832,310		

科 目	当年度	前年度	増 減
巡回健診研究事業費	1,356,040		
医学研究助成金	8,400,000		
海外渡航助成金	1,800,000		
助成金選考謝礼金	333,333		
健康セミナー費	6,784,161		
健診報告懇話会費	381,400		
相談研究事業費	927,501		
広報費	5,743,998		
建物造作減価償却費	4,491,125		
建物付属設備減価償却費	6,259,731		
器具備品減価償却費	7,422,657		
リース資産減価償却費	6,711,797		
② 管理費	9,456,404		
役員報酬	6,751,249		
給料手当	556,880		
基準外給料	82		
賞与	110,212		
賞与引当金繰入額	51,107		
退職給付費用	30,975		
福利厚生費	278,391		
旅費交通費	59,548		
会議費	97,360		
交際費	49,449		
通信費	24,156		
什器備品費	3,616		
割賦・機器リース料	80,607		
消耗品費	61,606		
修繕費	54,460		
印刷製本費	27,590		
水道光熱費	32,310		
借室料	585,139		
業務委託費	344,278		
保険料	120		
共益費	160,608		
清掃費	7,979		
雑費	88,682		
経常費用計	726,892,153		
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 108,115,417		
特定資産評価損益等	25,356,700		
投資有価証券評価損益等	▲ 7,166,000		
評価損益等	18,190,700		
当期経常増減額	▲ 89,924,717		
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 過年度修正益	9,543,420		
過年度修正益	9,543,420		
② 受取寄付金	50,000,000		
受取寄付金振替額	50,000,000		
経常外収益計	59,543,420		
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0		
当期経常外増減額	59,543,420		
当期一般正味財産増減額	▲ 30,381,297		
一般正味財産期首残高	674,463,922		
一般正味財産期末残高	644,082,625		
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産評価益	3,047,926,536		
基本財産評価益	3,047,926,536		
基本財産有価証券評価益	3,047,926,536		
② 一般正味財産への振替額	▲ 52,897,594		
一般正味財産への振替額	▲ 52,897,594		
当期指定正味財産増減額	2,995,028,942		
指定正味財産期首残高	10,297,236,023		
指定正味財産期末残高	13,292,264,965		
III 正味財産期末残高	13,936,347,590		

(注)公益財団法人としての通年決算初年度のため、前年度欄及び増減欄は省略している。